

中世のサムライヒーロー

楠公さんを

知ろう

第4回



楠公通学橋

楠木正成の魅力を探る 奥河内に育まれた「学ぶ心」

阪南大学 国際観光学部 准教授 和泉大樹

楠木正成は、この地で学問を修めたと伝えられている。河内長野市に所在する観心寺と伝大江時親邸跡がその場所である。

観心寺は、大宝元年（701年）の草創と伝わる古刹で、平安時代の所産である本尊如意輪観音菩薩や金堂をはじめとして、多くの国宝や重要文化財を持つることでも広く知られている。少年時代の正成は、この寺院の子院である中院において、僧灌覚から多くを学んだと伝えられている。

伝大江時親邸跡は、加賀田の地にあるが、現在は、江戸時代の建物が建ち、大阪

府から史跡の指定を受けている。ここでは、大江匡房の子孫である時親から兵法を学んだと伝えられている。

そして、正成は、約8キロを測る観心寺から伝大江時親邸跡までの道のりを1日足りとも休むことなく、数年間、通ったと伝えられている。また、その道中、正成が渡った橋があったとされる付近（南海三日月町駅の北側）には、「楠公通学橋」という交差点名が残る。

このように伝わる正成の学びは、「人から学ぶ」という学びであった。自らの足で僧龍覚や大江時親のもとへ通い、教えを請うた。こ

の「人から学ぶ」という学びは、様々な知識や思考を獲得するとともに、学び方や教え方についても理解を深めることとなり、ひいては、自身が教える側に転じることもつながると考えられる。そして、この学びの連鎖は、「人をつなぎ、大切にすることにも通じるのではないだろうか。

このように考えれば、「人から学ぶ」という学びは、人間関係が希薄化の傾向にあるとされる現代社会においても有効に機能するのではないか。「楠公通学橋」の交差点を通るたび、あらためてそう思う。